

第3回 地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

参考資料

【未来を切り拓く多様な人材を育む教育の推進】

- 1 才能を発揮する人材の育成..... 1
- 2 グローバル人材の育成..... 33

1 才能を発揮する人材の育成に関する資料

項 目	頁
魅力ある学校づくり推進事業	2
コアスクール	4
高校生アカデミックチャレンジ（高大連携推進）事業	5
地域との協働による高等学校教育改革推進事業・ ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム推進事業	6
熱海高校の取組（令和元年度）	7
榛原高校の取組（令和元年度）	10
三島北高校の取組（WWL 事業）	13
科学の甲子園	15
トップガン教育システム協議会	17
未来を切り拓く Dream 授業	20
未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版	22
日本の次世代リーダー養成塾への参画	23
静岡県文化プログラムにおける「地域部活」の取組	25
インテル国際学生科学技術フェア 2019 での受賞（掛川西高校）	26
第 25 回スーパーコンピューティングコンテストでの優勝（浜松工業高校）	27
全国で輝いた技・芸の星＜産業・芸術編＞	28

魅力ある学校づくり推進事業

(高校教育課)

1 概要

「魅力ある学校づくり推進事業」(下記(1)～(3))を実施し、県立高等学校の文武芸三道の鼎立を図る。

(1) 技芸を磨く実学の奨励 (2) 知性を高める学習の充実 (3) グローバル教育の推進

2 令和2年度事業計画(当初予算額 85,000 千円 9月補正▲3,952 千円講師招聘の減)

引き続き、「生きる道」を意識した実学の奨励による専門的職業人の育成、高大接続改革等への対応及び、豊かな国際感覚を身に付けた人材の育成を図るため、令和2年度も継続して事業を実施する。

コアスクールについては、3年目となり、最終年度となる。

区 分		実施校及び主な取組内容	予算 (9月補正) 単位：千円
技芸を磨く実学の奨励 専門高校 (農水工商等)の充実		実施校：田方農業、科学技術、伊東商業、清水南、浜松工業 など	26,650 (▲3,952)
新しい専門学科の研究等		専門学科(スポーツ科、演劇科、観光科)の設置研究、国際バカロレアの調査研究等	6,150 (0)
過疎地域等の学校への支援		対象校：下田、南伊豆分校、松崎、稲取、土肥分校、川根、春野校舎及び佐久間分校	2,400 (0)
知性を高める学習の充実	進学重点 コアスクール	実施校：韮山、沼津東、富士、清水東、静岡、静岡東、藤枝東、掛川西、磐田南、浜松北、浜松西	13,700 (0)
	学力向上 コアスクール	実施校：下田、三島南、富士東、清水南、静岡城北、焼津中央、藤枝西、島田、榛原、浜松南、浜北西	13,900 (0)
	学力進展 コアスクール	実施校：熱海、裾野、沼津城北、静岡西、藤枝北、島田工業、金谷、袋井商業、浜松湖東、浜松湖北、湖西	13,800 (0)
グローバル教育の推進	英語教育 コアスクール 英語ディベート	実施校：三島北、吉原、富士宮西、掛川西、浜松北、浜松湖南 英語ディベート教室、英語ディベート大会開催	8,400 (0)
計			85,000 (▲3,952)

3 課題と今後の方向性

(1) 学習指導要領に基づいて学力向上を図るとともに、「高校生のための学びの基礎診断」を効果的に活用する。

(2) 令和3年1月に大学入試センター試験に代わって実施される、「大学入学共通テスト」への対応

(3) 「新学習指導要領」や「大学共通テスト」でも求められる思考力・判断力・表現力等の育成

(4) 主体的に学習に取り組む態度の育成

4 令和元年度事業実績（決算額 95,000 千円）

区 分		実施校及び主な取組内容	予算 (単位：千円)	決算 (単位：千円)
技芸を磨く実学の奨励	専門高校（農水工商等）の充実	実施校：田方農業、科学技術、伊東商業、清水南、浜松工業 など	38,250	37,328
		○民間熟練技能者を活用した指導 ・アーク溶接作業の実技指導 ・フラワーデザインコンテストに向けた指導 ○マーケティング戦略等研究推進事業 ○ものづくり競技全国大会参加支援 など		
新しい専門学科の研究等		専門学科（スポーツ科、演劇科、観光科）の設置研究、国際バカロレアの調査研究等	6,150	3,073
過疎地域等の学校への支援		対象校：下田、南伊豆分校、松崎、稲取、土肥分校、川根、春野校舎及び佐久間分校 ○部活動に係る遠征費や、地域と連携した課題解決のための活動等を支援	5,682	6,091
知性を高める学習の充実	進学重点コアスクール	実施校：韮山、沼津東、富士、清水東、静岡、静岡東、藤枝東、掛川西、磐田南、浜松北、浜松西 ○静岡大学、県立大学、常葉大学における専門教養講座の受講 ○医療系学部進学に対応した特別講座	13,700	13,482
	学力向上コアスクール	実施校：下田、三島南、富士東、清水南、静岡城北、焼津中央、藤枝西、島田、榛原、浜松南、浜北西 ○志榛地区合同補講の実施（予備校講師の活用） ○自治体、企業、市民等との連携による課題改善の提案	13,900	12,941
	学力進展コアスクール	実施校：熱海、裾野、沼津城北、静岡西、藤枝北、島田工業、金谷、袋井商業、浜松湖東、浜松湖北、湖西 ○インターネットを用いた課題解説動画の配信 ○地元商店街へのアンテナショップ開設に向けた授業実践	13,800	13,430
グローバル教育の推進	英語教育コアスクール	実施校：三島北、吉原、富士宮西、掛川西、浜松北、浜松湖南	8,518	8,655
	英語ダイバート	○イングリッシュキャンプ（英語漬けの2日間） ○専門家等と連携した「英語でやりとりする力」を伸長する学習プログラムの開発・実践		

コアスクール

(高校教育課)

1 概要

新学習指導要領や高大接続改革で求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現し、生徒が「生きる力」を身に付けられるよう、平成 30 年度から学校の特色に応じた取組を進める高校を「コアスクール」に指定している。

2 令和 2 年度事業計画（当初予算額：48,600 千円）※R2 は指定年数 3 年間の最終年度

(1) 指定校

項目	採択数	指定校名
進学重点	11 校	韮山、沼津東、富士、清水東、静岡、静岡東、藤枝東、掛川西、磐田南、浜松北、浜松西
学力向上	11 校	下田、三島南、富士東、清水南、静岡城北、焼津中央、藤枝西、島田、榛原、浜松南、浜北西
学力進展	11 校	熱海、裾野、沼津城北、静岡西、藤枝北、島田工業、金谷、袋井商業、浜松湖東、浜松湖北、湖西
英語教育	6 校	三島北、吉原、富士宮西、掛川西、浜松北、浜松湖南

(2) 各校が定めたテーマに応じた特徴的な取組

項目	取組
進学重点	○中学生を対象とした科学教室、伊豆ジオパークとの連携(沼津東) ○医療系学部進学に対応した高度で専門的な講義(清水東)
学力向上	○大学との連携によるプランクトン研究、地域研究冊子の作成(下田) ○地元自治体等との連携による地域の課題把握と改善方法の提案(榛原)
学力進展	○フルーツパークの一日運営、生徒を講師とした地域開放講座(浜松湖北) ○地元商店街へのアンテナショップ開設に向けた授業実践(藤枝北)
英語教育	○海外の高校との Skype 等を活用したオンライン交流(掛川西) ○専門家等と連携した学習プログラムの開発・実践(三島北)

高校生アカデミックチャレンジ（高大連携推進）事業

(高校教育課)

1 要旨

理数科や職業系専門学科等を設置する高校と大学との連携を一層強化し、高校生に高度な学問の一端に触れたり、研究体験や活動を行ったりする機会を提供することにより、全県から専門分野で卓越した資質を有する生徒を発掘し、その意欲・能力を伸長することで、高校在学時から専門性を有し国際科学オリンピックや学会発表等で活躍する人材育成を推進する。

2 令和元年度事業実績（決算額3,500千円）

区 分		参加人数	予算額
オリンピックチャレンジ（自然） （国際科学オリンピック等への参加を促すための講習会等）		サイエンススクール指定校9校で実施	500千円
チャレンジラボ	実学分野（産業） （農業・食品1講座、工業3講座、商業2講座、芸術1講座、家庭・福祉1講座 計8講座）	90人	3,000千円

3 令和2年度年度事業計画（予算額3,500千円）

令和2年9月補正（▲3,500千円 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）

区 分	内 容	募集人数	予算額
オリンピックチャレンジ（自然）	・サイエンススクール指定校において、国際科学オリンピック等への参加を促すために、講演や講習会等の実施を支援する。 ・国際科学オリンピック等で上位入賞を目指す。 （物理、科学、生物、地学の4分野）	サイエンススクール指定校9校で実施	500千円
チャレンジラボ	・大学の研究室で5日程度の研究活動を大学院生等と実施 ・学校で研究を継続、学会発表や大会等で上位入賞を目指す （農業・食品1講座、工業3講座、商業2講座、芸術1講座、家庭・福祉1講座 計8講座×5人程度） ・静岡県立大学(農業、商業)、静岡文化芸術大学(芸術)、静岡大学(農業、工業)、沼津高専(工業)、静岡県立大学短期大学部(家庭・福祉)等における研究活動等	40人	3,000千円

4 成果・課題

(1) オリンピックチャレンジ

- ・各オリンピック事務局の積極的な協力により、専門性の高い講師が派遣され、大変充実したプログラムを実施することができた。
- ・参加者の大半が1年生であったため、知識量が十分でなかった。各オリンピックで活躍できる生徒の育成に向けて、まずは興味関心、意欲の向上を目指した。

(2) チャレンジラボ

- ・大学の協力により定員を増やすことができ、多くの生徒に参加する機会を与えることができた。また、高等学校では体験できない、専門性の高い研究体験を実施することができた。
- ・連続した日程では参加が難しい運動部の生徒などが参加できるように、日程の分散について大学と検討していく。

地域との協働による高等学校教育改革推進事業・ ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム推進事業

（高校教育課）

文部科学省「Society5.0に向けたリーディングプロジェクト」を活用して、指定を受けた県内高校が以下の事業に取り組んでいる。

○地域との協働による高等学校教育改革推進事業

新学習指導要領を踏まえ、地域を分厚く支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、高校が自治体、産業界等と協働して、地域課題の解決等の探究的な学びを進める。

現在本県では、以下の2校が、令和元年度から3年間の指定を受けて取り組んでいる。

類 型	本県指定校 (R2 指定校数)	予算額 (全額国庫)
(1) 地域魅力化型 地域ならではの新しい価値の創造に向け、地域をよく知り、コミュニティを支える人材を育成するため、地域課題の解決に向けた探究的な学びを各教科・科目等で実施する。	熱海高校 (全国 26 校)	R1: 4,000 千円 R2: 8,000 千円
(2) グローカル型 グローカルな視点をもってコミュニティを支える地域のリーダーを育成するため、各地域の特性に応じたグローバルな社会課題研究としてテーマを設定し、解決に向けた探究的な学びをカリキュラム等の中で実施する。	榛原高校 (全国 24 校)	R1: 5,000 千円 R2: 3,950 千円
(3) プロフェッショナル型 専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを各教科・科目等で実施する。	指定校なし (全国 15 校)	—

○ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム推進事業

イノベティブなグローバル人材を育成するため、高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生へより高度な学びを提供する仕組みを構築する。

本県では、事業拠点校として三島北高校が指定を受けている。(R2 全国 22 拠点)

指 定 校	事業拠点校：三島北高校 事業連携校：(県内) 沼津東高校、静岡高校、静岡市立高校 (県外) 長崎県立長崎東高校、宮城県仙台二華中学校・高校
指定期間	令和元年度～3年度
予 算 額	R1：10,000 千円、R2：9,000 千円（全額国庫）

熱海高校の取組（令和元年度）

1 学校概要

学校名	静岡県立熱海高等学校		課程	全日制
学科	普通科			
生徒数 (R1.5.1)	1年	96人		
	2年	66人		
	3年	91人		
	計	253人		
所在地	熱海市下多賀 1484-22			

2 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）の取組

(1) プロジェクト名

CASP（キャスピー）Community Activation Support Project

(2) 概要

○事業を通じて育成する地域人材像

「熱海人（あたみんちゅ）」

＝地域が抱える課題を自ら探り、課題解決のために主体的に取り組む人材

沖縄の「ウチナーンチュ」のように、美しい海と山に囲まれた熱海で、地元根差し、誇りをもって生きる人材が育まれるよう願いを込めている。

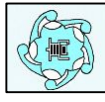
○プロジェクトの概要：次々頁参照

(3) 取組内容（抜粋）

取組名	熱高ラボ（桃陵ゼミ）	位置付け	総合的な探究の時間
対象	1年全員		
協力機関	熱海・伊東・湯河原・函南・三島等の商店・商業施設・観光案内所・市役所・町役場 等		
概要	<p>【目的】地域課題発見のための情報収集及び収集した情報をまとめてアウトプットする能力の育成</p> <p>【方法】設定された大テーマ（お土産・温泉・歴史・国際）の下、グループ（4～6人）で課題を設定、地元の商店等でのフィールドワークを通じて解決策をまとめ、ポスターセッションを実施。（静岡と神奈川の温泉の違い、地元の歴史ある建物と文学作品、外国人観光客が熱海を訪れる理由と人数の推移 など）</p>		
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が興味関心のあるテーマで「地元」にまつわることを調べることにより、今まであまり深く触れてこなかった地元に興味関心を持つことができた。 地域課題の解決という点を深めるため、地域人材との交流機会の更なる増加が課題である。 		

取組名	熱高ラボ（桃陵ゼミ）	位置付け	総合的な学習の時間
対 象	2年全員		
協力機関	地元企業（ガス会社、ホテル、パン販売店、自動車学校、福祉作業所、市役所など）		
概 要	<p>【目的】課題を発見する力・解決する力の育成。様々なものの見方、考え方を学び、将来のキャリア選択につなげる。</p> <p>【方法】企業訪問等により各企業について学び、その課題を抽出、グループ（3～4人）単位で企業の方からアドバイスをもらいながら解決策を検討してまとめ、プレゼンテーションを行う。</p> <p>（ホテルでの「お客様目線」と「遊び心」意識した新しい取組、新作パン開発に向けた消費者ニーズの把握、福祉作業所の製品の宣伝方法 など）</p>		
成果 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と家庭以外の大人と接することで色々な考えの人がいることを知り、多様な価値観の育成につながった。 ・大人たちとのコミュニケーションの中で得られる小さな成功体験を積み上げるにより、進路について具体的な方向性が定まるなど、社会や自分の将来に肯定的なマインドを持つことができた。 ・課題を見つけるため、生徒の基礎的な力（知識・経験）の育成と、指導する側（教員・企業）の育てたい人材像の共有が必要。 		

取組名	報道部	位置づけ	部活動
対 象	部員（3年5名、1年2名）		
協力機関	地元企業（信用金庫、駅ビル、設備会社、ホテルなど）		
概 要	<p>【方法】月1回の校内新聞及び年1回の地元信金による広報誌において、地域に根差した地元企業の紹介等をするため、企業への取材と記事作成を行った。以下は記事の例。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「熱海の奇跡」と呼ばれる活性化傾向を示す観光業の状況と観光活性化の中での空き家の増加（地域の光と影） ・観光産業を裏方で支える空調設備企業の紹介 ・地元の基幹である運輸業、ホテル業の沿革や現状の紹介 		
成果 ・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一般に流布する言説について、実際に現場に赴き確認することで、多様な複数の側面から理解できるようになった。 ・企業経営者等から企業の役割や地域貢献への思いを直接聞き、身近に理解するとともに、多くの人と接することで学校での学びでは実現しにくい社会性の涵養につながった。 ・今後は、伊豆の他地域の学校と協働し、より広い目で地域を意識するなど視点を変えた取組を検討する。 		



管理機関：静岡県教育委員会
地域協働推進校：静岡県立熱海高等学校

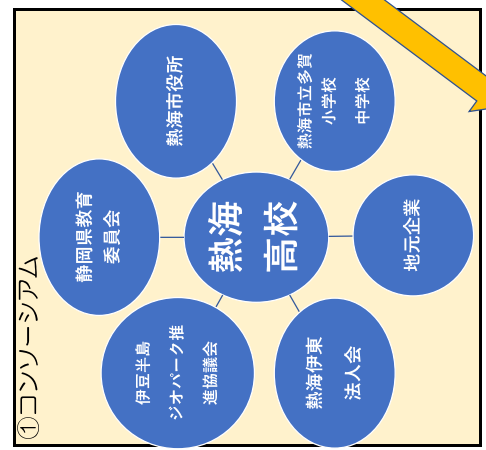
プロジェクト名 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）

プロジェクトの趣旨・目的（文科省）
高等学校と市町村、大学、産業界等が協働して①コンソーシアムを構築し、高等学校における②地域課題の解決等の探究的な学びを通して、③未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、④地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から厚く支えることのできる人材（三地域人材）の育成を図ることとする。

研究開発構想名
I 「外部資源を有効に活用した、地域を育ち、地域に育てもらうキャリア教育～」
II 研究開発の概要
地元企業自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、小中学校等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通して、地域への課題意識や貢献意識をもち、地域を育ち、地域に育てもらうキャリア教育～」の育成を図る。
III 研究の目的
全国平均27.79%の高齢化率に対し、47%の熱海市は少子高齢化に伴う人口減少等、現代社会の諸課題を先取りしている地域であり、本校はこうした課題を抱える熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで、総合的な探究の時間や各教科等における教科横断的探究活動を通して、将来の日本の地域社会を先取りした熱海市の課題を自分のこととして捉え、地域と協働することによりその解決方法を自律的に探り、さらに熱海ならではの新たな価値の創造を目指す人材を育成することを目的とする。

④どんな地域人材を育成するのか？熱海人（あたまんちゅ）

①「課題先進地域」 2050年の日本の地方都市「熱海」が抱える課題を「自分事」としてリアルに考え、	②どんなに困難な課題であってもあきらめずにかみ付き、	③高校生の特権である正義と公正と理辯を武器に互いに争い、
④現実に直面し、くじけず新しい新たなアプローチを考え出し、	⑤見返りを求めず、地域住民の喜ぶ顔を見て良かったと思え、	⑥たとえ、熱海でないとこがであっても同様にその地域の抱える課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材



⑤未来を切り拓くために必要な資質・能力 ⇒ 熱海高校で育成する3つの能力

探究力	主体性	協調性
読解力、文章表現力、数的処理能力 価値の創造、好奇心、知識欲、解決欲求	リーダーシップ、自発的、自主的、積極性、自律性、やり抜く力 企画力、創造力、提案力	コミュニケーション能力、共感性、チーム志向、敬愛、協力 フォローシップ、多様性、寛容、受容

＜本校の教育方針＞

- ・自発的に学習し、自主的に判断し、自律的に行動できる人間の育成
- ・民主的な社会の形成者として、敬愛と協力の精神を持ち、誠実に生き、かつ働く健康な人間の育成
- ・故郷を大切に、将来にわたり地域を支える人間の育成

I 総合的な探究の時間（桃陵）

- ・地域課題のテーマ設定、解決方法
「観光」観光と地場産業
「福祉」高齢化、バリアフリー
「防災」津波対策
「国際交流」外国人労働者
「エネルギー資源」温泉活用
- ・企業、自治体と協働し企業が求める人材の考察を通じ、将来の生き方を考える。

現在の熱海 年少人口 3% 生産年齢人口 50% 高齢人口 47%	30代未婚率全国ワースト1位 48.5%	空家率 50.7% 静岡県ワースト1位
生活保護者率 167 静岡県ワースト2位		

II 授業での取組例

商業 高校生ホテル、ツアープラン、商品開発、実習、起業家育成プロジェクト	福祉 多賀小との交流、実習、介護食の開発	英語 観光チラシの作成、街頭インタビュー対策
国語 効果的なインタビュー、プレゼン方法	社会 熱海の史跡（神社等の歴史）	理科 熱海のジオ
家庭 熱海特産品の調理法開発	保健 健康増進（温泉の効用）	数学 データ分析等
部活動での取組	III	IV
・エイサー部、ポランティア部 地元施設訪問、イベントでの発表、手伝い等の地域貢献、異校種交流	・運動部 地元祭りへの参加	・報道部 企業とコラボした広報誌作成
		特別活動 ・熱海市2030会議参加、子ども食堂開催 ・社会人講話

榛原高校の取組（令和元年度）

1 学校概要

学校名	静岡県立榛原高等学校		課程	全日制
学科	普通科、理数科			
生徒数 (R1.5.1)		普通科	理数科	計
	1年	186人	40人	226人
	2年	204人	39人	243人
	3年	196人	32人	228人
	計	586人	111人	697人
所在地	牧之原市静波 850			

2 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）の取組

(1) プロジェクト名

H A Fプロジェクト HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT

～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

(2) 概要

○目標・目的

- ・地域についての確かな理解と、グローバルな視野を併せ持つグローバルリーダーの育成
- ・これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、能動的に学び続けることができる人材の育成
- ・産学官の連携により、地域と学校が一体となって生徒を育成し、持続可能な社会システムを構築する

○プロジェクトの概要：次々頁参照

(3) 取組内容（抜粋）

取組名	榛高タイム	位置付け	総合的な探究の時間
対象	1年全員		
協力機関	市役所、地元企業		
概要	<p>【目的】自己理解を深めた上で、身近な社会を知り、世界とのつながりを考える。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長の講話「牧之原市の未来構想」や、地元企業で働く方の就職までの経緯や現在の仕事についての講演の聴講 ・茶の都ミュージアムや静岡大学などでのフィールドワーク ・グループでテーマを設定、課題を見だし、解決策をまとめる ・校内でポスターセッションを実施。（市役所での実施はコロナ感染症拡大防止のため中止） 		

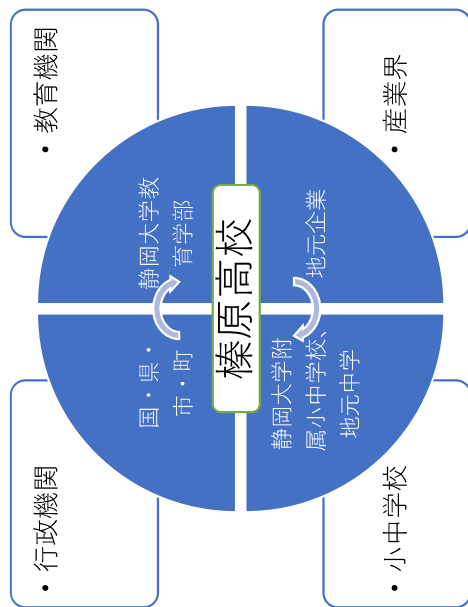
取組名	実社会プログラム	位置付け	課外授業
対 象	1・2年希望者（1年87人、2年15人）		
協力機関	市内及び周辺市の企業（食品会社、機械メーカー、空港など）		
概 要	<p>【目的】 地域課題について、金融・経済の視点から分析を行う。また、国内/海外でフィールドワーク等を実施し、より深い学びを行う。</p> <p>【活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問（製造現場の見学、経営方針の説明等） ・証券会社からの講師による金融経済教室（日本経済新聞の読み方、経済指標を用いた企業分析手法等）を受講 ・希望者にアメリカ研修（13人）・台湾研修（16人）を実施。事前研修として県内企業を、海外では当該企業の海外拠点（製茶業、機械メーカー）等を、それぞれ訪問 ・グループ（4人程度）で地域経済活性化のためのレポート作成及び発表（生分解プラスチックの普及、海外から学ぶ茶業振興策など） ・作成レポートを日経 STOCK リーグに応募、7チームが1次予選通過 		

○全体を通じて

成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に行ったアンケート結果では、生徒の「地域社会や世界と自分とのつながりへの意識」「立場が異なる他者の意見の尊重」「実社会とのつながりの実感」について、高い評価を得た。 <p>〈カリキュラムアドバイザー（静大講師）による今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の各教科の授業改善への反映 ・周辺の中学校への周知及び発展
-------	--

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル） 静岡県立榛原高等学校

榛原高校を支えるコンソーシアム



榛原高校の目指す教育

グローバルリーダーの育成

地域についての認識を深めた**地域リーダー**の育成
グローバルな視野を持つ**グローバルリーダー**の育成
これからの時代に求められるスキルの育成

H A Fプロジェクト
HAIBARA ACHIEVING FUTURES PROJECT
～地域と世界を結ぶ有為な人材育成の望ましい在り方についての研究～

地域のコミュニティの危機

- ・少子高齢化、人口流出
- ・耕作放棄地、空き家問題
- ・地域社会のグローバル化

地域を支える若い担い手の育成は地域の願い

人材の reflux

総合的な探究の時間の改革

文理融合型のカリキュラム開発

社会教育機関との連携

榛原高校と高校生への期待

具体的な取り組み

- ・ファシリテーション研修
- ・課題解決・協働学習
- ・大学（研究室）訪問
- ・フィールドワーク（企業訪問）
- ・主権者教育
- ・レポート作成、プレゼンテーション
- ・ESLプログラム
- ・海外研修（シンガポール、台湾、アメリカ・シアトル）

榛原高校のチャレンジ（H27～）

- ・海外研修の導入
- ・理数科 シンガポール研修
- ・普通科 台湾研修
- ・海外修学旅行の導入へ

文科省委託事業への参加
実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム

静岡県教育委員会事業への参加
魅力ある学校づくり推進事業
アドバンススクール事業

牧之原市との連携事業

地域リーダー育成プログラム

三島北高校の取組（WWL事業）

1 事業名 ふじのくにアドバンスト・ラーニング・コンソーシアム構築事業

2 実施期間 令和元年4月～令和4年3月（3年間）

3 事業拠点校及び事業連携校

事業拠点校：静岡県立三島北高等学校

事業連携校：県立静岡高等学校、県立沼津東高等学校、静岡市立高等学校、
宮城県仙台二華中学校・高等学校、長崎県立長崎東高等学校

4 構想の概要

(1) 目的：Society5.0を担う静岡県の高校生が、個々の興味・関心・特性に応じて、より高度な学習プログラムに参加することにより、イノベティブなグローバル人材に必要な知識、能力及び心構えを身に付けることを目的とする。

(2) 推進組織：ふじのくにアドバンスト・ラーニング・コンソーシアム(略称:FALCon)
事業拠点校・事業連携校と県(教育委員会・知事部局)、地元銀行、大学教授等により構成。新たな学習プログラムの開発や環境整備とその普及改善に取り組む。

<FALConの主な事業>

- ① 「ふじのくにアドバンスト・プレイスメント・システム(*)」の設計・構築及び運営
*県内の大学と連携し高校生が大学の高度な授業を受講できる機会を提供する仕組み
- ② 「ふじのくにグローバル・セミナー」の企画及び実施
- ③ 課題研究を組み込んだ普通科高校の教育課程の開発及び課題研究シラバスの開発
- ④ 教育機関等への事業成果の発信及び周知・普及活動の実施

5 取組の特徴

(1) イノベティブなグローバル人材育成を目指した課題研究の実施

主テーマを「持続可能な開発目標（SDGs）」とし、グローバルな課題解決に向け、探究活動に取り組む。

あわせて、2年生全員が英語でのプレゼンテーションにチャレンジする。

(2) 事業拠点校を中心に高校生国際会議を令和3年度に開催

「Multi-Dimensional Approach to SDGs related to Crisis ～Crisisに負けない持続可能な社会づくりを目指して」をテーマに、アメリカ、オーストラリア、シンガポール、ベトナム、台湾の高校生が参加予定。

(3) 学校オリジナル科目「海外研修」「STEM for SDGs」で教科を超えた高度な学びに挑戦

「海外研修」履修者はベトナム研修に、「STEM for SDGs」履修者の一部はアメリカミネソタ州立大学でのSTEM (Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学))研修に参加し、高度で幅広い学びに挑む。(ただし、令和2年度は海外派遣は中止。)

(4) 高校在学中に大学レベルの学びを受けられる仕組みの構築

課題探究活動では、高校では学ぶことができない幅広い、高度な学びが必要となるため、静岡大学と連携し、試行的に、大学生が学ぶ「アカデミック・スキルズ」「数理データサイエンス」の教材を高校の授業に取り入れる取組を実施。



ふじのくにアドバンスト・ラーニング・コンソーシアムの構築

課題意識：

- ① 静岡県の人口社会減
← 高大接続のミスマッチ？
- ② SGHの取組：
研究の質 & 波及効果

FALCon評価委員会
(運営指導委員会)

事業の調査・分析・評価

県教育委員会 (管理機関)

運営組織委員会

事業の計画・運営・業務管理

ふじのくに地域・大学
コンソーシアム
(既存法人)

県大学課

ふじのくにアドバンスト・
ラーニング・コンソーシアム
(FALCon)

OFFICE

ふじのくにグローバル・セミナー

県地域外交課
海外駐在員事務所

県内外企業

教育課程開発

三島北高 (拠点校)

静岡高, 沼津東高, 静岡市立高 (県内連携校)

グローバルな社会課題研究
「Multi-Dimensional Approach to SDGs」

課題研究指導委員会

課題研究指導

仙台二華中・高, 長崎東高
(県外連携校)

ふじのくにアドバンスト・
プレイスメント・システム構築

ふじのくにAPS運用
(2021年～)

高校生が大学の設置する科目を受講し
評価を受けるシステム

高校生国際会議の開催
(2021年)

SDGsを複数の視点からアプローチする
課題研究活動に関する
日本国内外の高校生による国際会議

アジアの高等教育体感コース

- 語学研修
STEM教育
- 水問題・SDGs
フィールドワーク
- Society5.0 &
静岡県地域外交体感コース

取組の推進を支援する
「C-課」とは出願課



科学の甲子園

(高校教育課・義務教育課)

○ 要旨

全国の科学好きの生徒の裾野を広げ、才能を十分に発揮し、切磋琢磨する機会を提供するため、科学技術、理科、数学等における複数分野にわたる内容で競う大会。

(主催：国立研究開発法人 科学技術振興機構)

本県では、あわせて理数教育の推進と科学好きの裾野を広げることを目的に「科学の甲子園静岡県大会」を開催し、全国大会に出場する静岡県代表チームを選抜している。

○科学の甲子園（高校生）

1 令和2年度事業計画

新型コロナウイルス感染症対策のため、競技の種類やルールを変更して実施している。今後も状況により変更がある可能性がある。

	県一次予選	県最終予選	全国大会
主催	県教育委員会	県教育委員会	科学技術振興機構
実施時期	10月18日(日)	12月13日(日)	3月19日～22日
会場	各参加校	県総合教育センター	つくば市
競技内容	筆記競技	筆記競技	筆記競技、実験競技、総合競技
参加対象者	高校1,2年生 6人1チーム(※)	県一次予選 上位7チーム 8人1チーム	県最終予選 優勝チーム 8人1チーム

※参加者：335人・16校（県立13校・市立1校・私立2校）計57チーム

2 令和元年度事業実績

令和元年度	県一次予選	県最終予選	全国大会
実施日	10月20日(日)	12月26日(木)	3月20日～23日
会場	県内3地区 (東部・中部・西部)	県総合教育センター	さいたま市
参加者	336人 17校58チーム 県立12校、市立1校、 私立4校	40人 沼津東A、清水東A、 磐田南H、下田B、 磐田南G	沼津東A (予選段階では全国 から9,000人超の 高校生が参加)
順位	1位：沼津東A 2位：清水東A 3位：磐田南H	1位：沼津東A 2位：清水東A 3位：磐田南H	新型コロナウイルス 感染症のため中止。

3 これまでの実績

年度	H27	H28	H29	H30
1次予選参加者	339人 57チーム	274人 46チーム	248人 43チーム	276人 48チーム
参加校	15校	13校	13校	16校
参加校種別	県立：11校 市立：1校 私立：3校	県立：9校 市立：1校 私立：3校	県立：9校 市立：1校 私立：3校	県立：12校 市立：1校 私立：3校
全国大会出場	磐田南高校	掛川西高校	沼津東高校	沼津東高校
全国大会順位	39位	16位	21位	39位

※平成26年度 清水東高校3位、平成28年度 掛川西高校事前公開競技4位

○科学の甲子園ジュニア（中学生）

1 令和元年度事業実績（令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止）

	県予選	県決勝	全国大会
実施日	7月20日（土）	8月3日（土）	12月6日（金）～8日（日）
会場	県内2地区 （東部・西部）	県総合教育センター	つくば市
参加者、 結果等	55チーム（165人） 市町立53人、県立15人、 国立55人、私立42人	優勝： 静大附属島田中学校 準優勝： 静大附属島田中学校	総合23位 （競技別の入賞なし）

・静岡県大会

中学1，2年生で構成した1チーム3人で筆記競技及び実技競技に取り組み、成績上位2チームが、静岡県代表合同チームとして全国大会に出場する。

なお、県大会後、静岡県合同代表チーム研修会を開催。県代表生徒6名が全国大会に備えた。

・全国大会

実生活・実社会との関連、融合領域、説明能力等に配慮した、理科、数学等の複数分野における筆記競技及び実技競技を行い、総合点を競う。

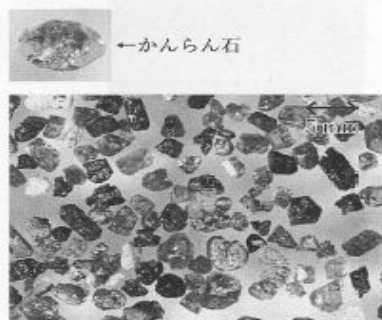
総合入賞チームや各競技入賞チームには、文部科学大臣賞等が授与される。

2 成果と課題

- ・「科学好きの裾野を広げる」という目的に基づき、県大会の予選・決勝ともに筆記競技と実技競技の両方を実施したことにより、「参加してよかった」「問題を協力して解いた時の感動は言葉では言い表せない」等の感想が多く聞かれた。
- ・参加チームは55チーム（165人）と、30年度の38チーム（114人）から増加した。
- ・公立（市町立）中学校からの参加生徒数を増やすための方策を検討する必要がある。

【筆記競技 問題例】

問3 神奈川県で採取した立川ロームの粘土質の部分洗い流すと、残った有色鉱物は半分以上が、かんらん石【図4】であった。このことと【図5】から、立川ロームの主な供給源の火山として、最も適当なものを【表1】の6つの中から選び、火山名を答えよ。また、その理由を2つの観点から述べよ。

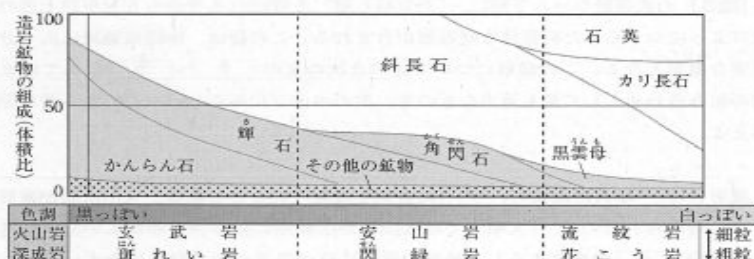


【図4】 火山灰中の鉱物

【表1】 火山名とマグマの岩質

火山名	主な岩質
雄山(東京・三宅島)	玄武岩質
桜島(鹿児島)	安山岩質
雲仙普賢岳(長崎)	デイサイト質
富士山(静岡・山梨)	玄武岩質
浅間山(長野・群馬)	安山岩質
有珠山(北海道)	デイサイト質

※デイサイト質とは、安山岩と流紋岩の中間的な化学組成のマグマのことである。



【図5】 火成岩の分類と造岩鉱物の組成（青緑色が有色鉱物）

トップガン教育システム協議会

1 目的

一人ひとりの“得意”を伸ばす教育システムを確立し、「人間性の育成」、「基礎学力の習得」、「自由な考えと創造性を伸長する教育」を通じ、夢と志をもって世界的に活躍する人材を浜松地域から輩出することを目的とする。

2 トップガン教育システム協議会（平成29年度設立）

(1) 構成員

静岡大学、浜松市（首長部局・教育委員会・市内小中学校等）、
（公財）浜松地域イノベーション推進機構、浜松医科大学、
光産業創成大学院大学、浜松商工会議所、浜松いわた信用金庫、
静岡県（経済産業部） 等

(2) 拠点校 静岡大学教育学部附属浜松小学校・中学校

3 主な活動

(1) 児童生徒の才能を見出し、評価し、育てるためのコンテストの開催

○Mathやらまいかコンテスト

小学生を対象に、算数の計算力や思考力を競い、算数の面白さを伝えるきっかけづくりとともに才能の発掘につなげる。

○理科学研究プレゼンテーションコンテスト

小学5年生から中学2年生を対象に、夏休みの自由研究や部活動などでの理科学研究の成果を披露し、研究内容や発表技術を競う。

(2) 課外講座の開催

中学生を対象に、大学関係者等を講師として、「お湯で動くSMAエンジンを作ろう！」「身近な物理学から迫る“人工衛星”」「水中探査ロボットで池の中の自然を探ろう」などのテーマに応じて、グループで課題に取り組む。

(3) 高校科学系部活動との交流、企業・大学研究所等への訪問

中学生等を対象に、高校の科学系の部活動や、最先端技術を開発する企業、大学の研究現場を訪問し、それぞれの研究の一端に触れる。

(4) 地域の理数系教員への研修支援

中学校・高校の教員を対象に、地域の教科別研修組織などを利用して、大学教員等により高度な専門性を育成するための支援を行う。

トップガンについて

浜松地域では2009年に文科省、経産省の地域中核産学官連携拠点事業の「浜松・東三河 光・電子イノベーション創出拠点」の採択を受け、浜松地域から「夢と志をもって世界的に活躍する人材」を多数輩出しようという願いを込めて、地域の産学官の連携の下、長期的人材育成事業（トップガン教育システム）に取り組んで参りました。



5年間の事業期間を終え、才能の発掘と育成に取り組む研究会の精神を引き継ぐと、2017年、静岡大教育学部附属浜松小・中学校を拠点校に協議会を設立。

平成29年度からは「トップガン教育システム協議会」として事業を引き継ぎ、特に理数系の分野において子ども達の個性を伸ばして“得意”を“特異”とする教育システムの確立を目指しています。

次世代を担う突出した理数系人材を育成するとともに、浜松で育った子供たちが世界中で大活躍し、全国の人々が浜松に注目し、自分の子どもを浜松で育てたいと思っただけになることが私たちの夢です。多くの子どもたちのトップガン事業への参加を期待しています。

トップガン教育システム協議会 メンバー

	氏名	所属	部署・役職
1 名誉顧問	天野 浩	名古屋大学	未来材料・システム研究所 未来エレクトロニクス集積研究センターセンター長・教授
2 会長	木村 雅和	静岡大学	理事(研究・社会産学連携担当)／副学長・イノベーション社会連携推進機構 機構長
3 委員	三田 功	静岡県	経済産業部 産業革新局 新産業集積課 課長
4 委員	藤田 健次	浜松市	市民部 創造都市・文化振興課 生涯学習担当課長
5 委員	中村 雅臣	浜松市	市民部 創造都市・文化振興課 副主幹生涯学習推進グループ長
6 委員	村上 広幸	浜松市	産業部産業振興課産業部次長兼産業振興課長
7 委員	松下 誠也	浜松市	産業部産業振興課 新産業創出グループ
8 委員・監事	名波 佳紀	浜松商工会議所	工業振興課 課長代理
9 委員	竹内 孝夫	浜松市教育委員会	学校教育部参事・教育審議監(教育総務課)
10 委員	今村ゆかり	浜松庄内学園	校長 小中一貫校代表
11 委員	野田 忍	浜松市立竜禅寺小学校	校長 浜松市教育研究会算数科顧問校長
12 委員	山本 千興	浜松市立入野小学校	校長 浜松市教育研究会理科顧問校長
13 委員	小田木基行	浜松科学館みらい〜ら	館長
14 委員	伊東 幸宏	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	フotonバレーセンター センター長
15 委員	藁島 伸生	浜松医科大学	副学長(研究担当)光先端医学教育研究センター長／教授
16 委員・監事	花山 良平	光産業創成大学院大学	光産業創成研究科 准教授
17 委員	丹沢 哲郎	静岡大学	理事(教育・附属学校園担当)／副学長
18 委員	小南 陽亮	静岡大学	学院院教育学領域 教授
19 委員	藤間 信久	静岡大学	学院院工学領域 教授
20 委員	鈴木 秀幸	静岡大学	教育学部 客員教授・附属浜松中学校 校長
21 委員	田中 紀充	浜松いわた信用金庫	法人営業部 副部長
22 アドバイザー	花井 和徳	浜松市	教育委員会 教育長
23 アドバイザー	渡辺 宜宏	湖西市	教育委員会 教育長
24 アドバイザー	村松 啓至	磐田市	教育委員会 教育長
25 アドバイザー	鈴木 一吉	袋井市	教育委員会 教育長
26 アドバイザー	比奈地敏彦	森町	教育委員会 教育長
27 アドバイザー	佐藤 嘉晃	掛川市	教育委員会 教育長

産学官連携による理数才能教育・トップガン

浜松商工会議所
 浜松いわた信用金庫
 ヤマハ（株）
 協賛：須山建設（株）、丸八不動産（株）
 （株）ソミック石川、（株）丸八
 （株）第一印刷、（株）ヤマザキ
 令和2年度2社から申出有

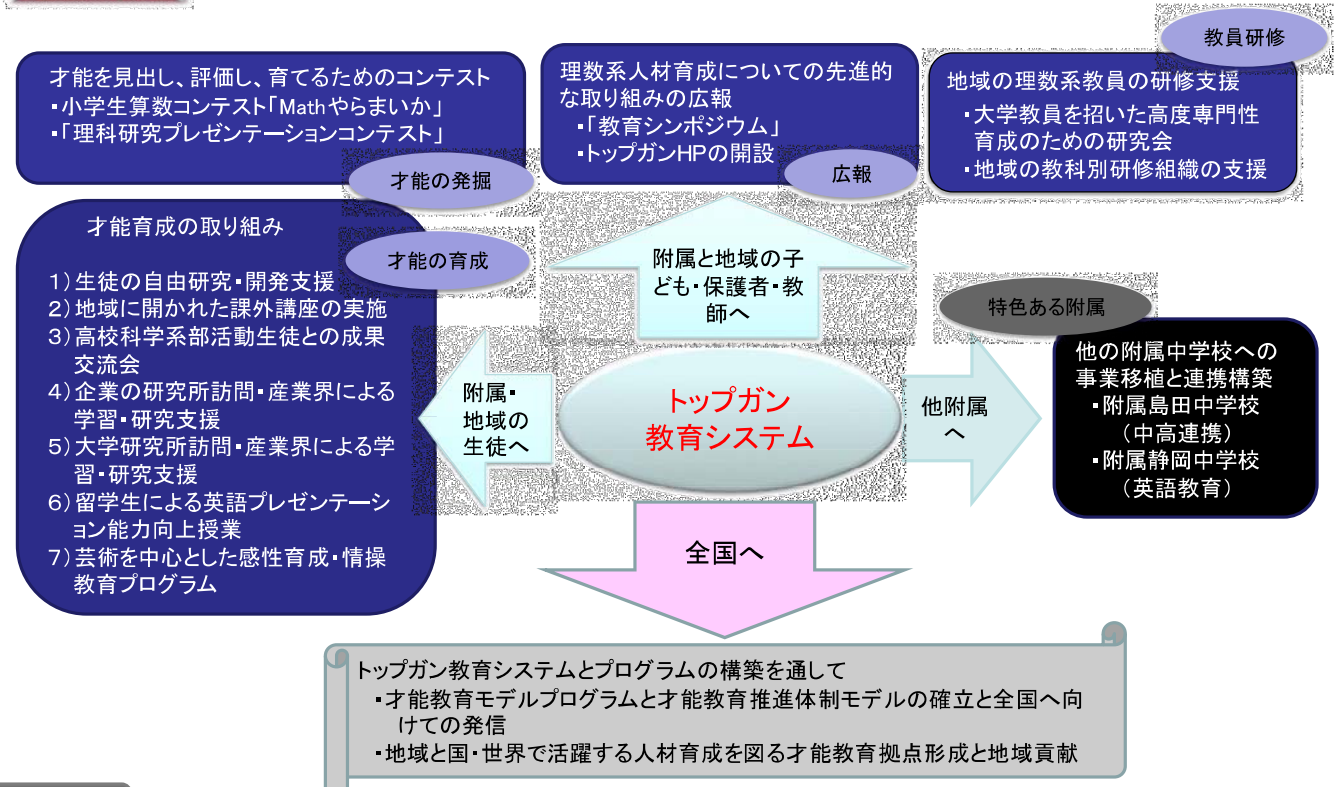
静岡県 ・経済産業部産業革新局
 浜松市 ・市民部 創造都市・文化振興課
 ・産業部産業振興課

トップガン教育システム協議会

静岡大学
 浜松医科大学
 光産業創成大学院大学
*後援：浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、森町、掛川市、
 菊川市、御前崎市の各教育委員会



トップガン教育システム事業概念図



大学の支援
 基盤組織

事業の企画・運営・実施を担う「トップガン推進協議会」と大学教員による支援組織「トップガン推進会議」の設置
 公立学校理数才能教育支援プログラム「ダビンチキッズ」と「科学技術教育センター（仮称）」との連携（工・情報学部）
 「静岡大学才能教育センター」構想

未来を切り拓く Dream 授業

(総合教育課)

1 概要

将来、日本や世界で活躍したいと考えている子供たちに、日常生活で触れる機会の少ない一流の講師陣の講義を提供し、学校では学ぶことのできない教養を身に付け、世界トップクラスの講師の人間性等に触れるとともに、お互いに刺激し合える仲間を県内各地につくることで、子供たちが自らの価値を認識し、自らの能力を更に伸ばすきっかけを与える。

なお、令和2年度は、8月に開催する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、県内中学校における夏休みの短縮が見込まれること等から開催を中止した。

2 令和元年度の実施内容

日 程	令和元年8月6日(火)～8月9日(金)(3泊4日)	
場 所	静岡県庁※初日のみ、静岡県総合教育センター(掛川市)	
対 象	分野を問わず、将来日本や世界で活躍したいと考えている 県内の中学1・2年生 30名	
応募者数	107名(抽選により選考)	
内 容	講義	講師8人
	交流・実技等	外国人留学生・ALTとの交流、SPAC俳優による表現指導
	グループディスカッション・発表	テーマ:「みんな知事になって理想のまちをつくろう」

3 令和元年度の講師(50音順)

講 師	役職等
池上 重弘	静岡文化芸術大学副学長、実践委員会副委員長
小野澤 宏時	ラグビー元日本代表、アザレア・セブン監督、県教育委員会委員
加藤 百合子	(株)エムスクエア・ラボ代表取締役、県教育委員会委員
川勝 平太	静岡県知事
斎藤 成也	国立遺伝学研究所教授
矢野 弘典	(一社)ふじのくにづくり支援センター理事長、実践委員会委員長
若村 麻由美	俳優、ふじのくに観光大使
SPAC 劇団員	(公財)静岡県舞台芸術センター



川勝知事による講義



外国人留学生・国際交流員・ALTとの交流



グループディスカッション

4 受講者のアンケート結果（令和2年度実施）

（1）令和元年度参加者による実施1年後アンケート結果

【参加者：Dream 授業で学んだことがどのように活かされているか】

- ・視野を世界に広げることができるよう、何事にも積極的に取り組むようにしている。
- ・しっかりした目標を持ち、人に伝え、それに向かって諦めずに努力を続けている。
- ・人と人とのつながりを大切にして、周りのために動ける人間になるため全体を見ることを意識できるようになり、場を考えて人との調和も意識して動いている。
- ・言われたことに対して一点しか見ていなかったが、それについて二点、三点考えるようになった。

【保護者：参加した生徒にどのような変化があったか】

- ・将来自分はどうなりたいのかのために、どういう学びや勉強が必要なかを自らが考えられるようになってきた。
- ・授業で学んだことを身の回りのことと結びつけて事象を考えることが増えた。
- ・物事を掘り下げて考えられるようになり、学習面でもそれが活かしていると思う。
- ・身近なことだけではなく、世界に目を向けた考えを話し、そのために自分ができることは何かを考えるようになった。
- ・自分の居場所や役割を探して、一生懸命な姿が見られる。うまくいかないこともあるが、それをチャンスと捉え、色々なことに挑戦している。
- ・人の意見を尊重しながら、自分の意見もしっかり伝えられるようになり、お互いの良い点を集約することができるようになった。

（2）平成30年度参加者による実施2年後アンケート結果

【参加者：Dream 授業で学んだことがどのように活かされているか】

- ・将来のことについて考えることが増えたとともに、これからの社会のことについて考える必要性が感じられるようになった。
- ・物事を一点ではなく、複数の別の角度からも見ることができるようになった。
- ・人と協力して1つのことを成し遂げる楽しさや大切さを知り、今の生活でも大いに役立っている。
- ・何事も意識して意思を持ち、夢中になって取り組むことが上達の秘訣であるため、何事も全力で取り組もうと考えるようになった。

【保護者：参加した生徒にどのような変化があったか】

- ・何事にも積極的になり、授業での発表や発言も多くするようになり、生徒会や部活などでもリーダー的存在として活躍することができた。
- ・部活動で主将を務めるなど、自ら動き出そうとする気持ちの高まりを感じている。
- ・海外への興味、異文化交流や留学に関心が強くなり、将来への方向性がある程度決まってきた。
- ・自分の将来について真剣に考えるようになり、そのためには今何をしたらいいのか考え、行動できるようになってきたと思う。

未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版

(賀茂地域広域連携会議 教育委員会の共同設置専門部会)

※賀茂地域1市5町教育委員会、県教育委員会、県

(目的)

「賀茂地域教育振興方針（令和2年3月改訂）」に基づき、「賀茂は一つ」の想いのもと、ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献できる「賀茂の子」を育むため、賀茂地域に想いを寄せ力を尽くしている講師陣の講義を通じて、日常生活では目に触れることがない地域の実情や、講師の人間性等に触れるとともに、お互いに刺激し合える仲間を地域内につくることで、自分の生まれ育った地域が大好きな子供たち、「地域のためになりたい」という思いを持つ子供たちを育成する。

(概要)

日 程	・11月22日（日）、23日（月・祝）（2日間）
場 所	・賀茂キャンパス（県下田総合庁舎別館2階 下田市中531-1）
対 象	・賀茂地域1市5町の中学1、2年生 約30名

※新型コロナウイルス感染症拡大状況によって、中止・内容変更等があり得る。

【11月22日（日）】（予定）

内容	時間	講師 ※敬称略
オリエンテーション	9:30～9:40	
1時間目	9:40～10:25	土屋優行（静岡県特別補佐官）
2時間目	10:35～12:10	北川雅子（生涯学習事業講師） *「つけもの石 de カーリング」実技
昼休み	12:10～13:00	
3時間目	13:00～14:00	遠藤一郎（(株)クックランド代表）
4時間目	14:10～15:10	後藤清也（SEIYA Design 代表）
5時間目	15:20～16:20	杉本憲一（(株)ウィンディーネットワーク代表取締役）
連絡事項	16:20～16:30	

【11月23日（月・祝）】（予定）

内容	時間	講師 ※敬称略
オリエンテーション	9:30～9:40	
1時間目	9:40～10:40	松本潤一郎（(株)BASE TRES 代表取締役）
2時間目	10:50～11:50	白輪剛史（(有)Rep JAPAN 代表取締役）
昼休み	11:50～12:40	
3時間目	12:40～13:40	鈴木雄介（静岡大学東部サテライト准教授）
4時間目	13:50～14:50	討議（発表準備）
5時間目	15:00～16:00	各班発表（◎）
連絡事項	16:00～16:10	

◎発表テーマ（予定）「みんなで理想の賀茂地域を作ろう」

日本の次世代リーダー養成塾への参画

(総合教育課)

1 目 的

各界を代表する講師陣による講義（教養系、ビジネス系、国際系、人間学）、プロジェクト型企画「アジア・ハイスクール・サミット」、ディスカッションを積み重ねて、リーダーとして必要な多面的な思考力や分析力などを養う「日本の次世代リーダー養成塾」（平成16年開塾）に参画し、本県の高校生を派遣することで、本県発展の中核的存在となる人材の育成を促進する。

また、参加した生徒が所属する学校でのリーダーシップを発揮することにより、学校の活性化を図る。

2 本年度の概要

日 程	(オンライン講義等) 令和2年8月8日(土)から8月12日(水)、23日(日)、30日(日)、 9月6日(日)、13日(日)、19日(土)20日(日) 計11日 (オンライン発表会・卒塾式) 令和2年9月21日(月)から9月22日(火)
場 所	自宅等
参加者 (静岡県推薦枠)	県内の高校生 11人(公立3人、私立8人)
参加者 (塾全体)	全国の高校生 174人 ・参画自治体推薦枠 144人 ・全国からの一般公募枠 30人
内 容	・オンライン講義 ・アジア・ハイスクール・サミット ・マレーシア次世代リーダー養成塾、アジア高校生架け橋プロジェクトとの交流 等

3 事業の概要

- ・ 塾長：中西 宏明（日本経済団体連合会会長） ・ 理事：川勝知事ほか19人
- ・ 全国の高校生（1～3年生）を対象 <約170人が参加>
⇒ 平成16年に開塾
⇒ 日本だけでなく、世界に通用する人材育成を目指す
- ・ 福岡県宗像市等を会場とした約2週間のサマースクール
⇒ 例年、7月下旬から8月上旬に実施（合宿形式）
※令和2年度は全てのカリキュラムをオンライン形式で実施
⇒ 日本や世界を代表する学者や経済人約20人の講師による講義、日本や世界が抱える問題を2週間かけて議論するグループディスカッションなどを行う
- ・ 参画自治体
北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市

4 昨年度参加者のアンケート結果（全塾生対象）

（1）リーダー塾に参加して1番よかったこと

項 目	回 答
1 仲間・友人ができた	55%
2 講義やディスカッションから新しい知識や気づきを得た	20%
3 世界観・価値観が広がった	11%
4 自分の成長を感じられた	6%
その他	8%
計	100%

（2）参加後ものの考え方や興味関心は変わったか

項 目	回 答
1 大いに変わった	66%
2 変わった	27%
3 少し変わった	5%
4 変わらなかった	2%
計	100%

98%

5 本年度参加者の感想（静岡県推薦枠対象）

- ・リーダー塾を通して、新型コロナウイルス感染症による世界の変化を感じた。特にIT分野の進歩が大きいと思う。変化を恐れ、何もしなければ人類の発展は望めない。常に新しいことを求め、技術を道具として使っていくことができれば、人類はさらなる進歩を遂げることができるのではないかと思うようになった。今後のポスト・コロナ時代における様々な変化に臨機応変に対応して、人々を導けるようなリーダーになりたい。
- ・多くの先生の講義から、人生を通して長く学び続ける人間がリーダーになれることを知った。学問だけではなく、「考える力」や日本から世界に飛び出すことで得られる経験、国際的な視野、文化の体験など、人生は知るべきことにあふれていることを強く実感した。今後は、臆せず新しいことに挑戦し、経験豊かな人材となり、世界が抱えている問題を解決するためにリーダーとして尽力したい。

6 未来を切り拓く Dream 授業との連携

「日本の次世代リーダー養成塾」卒塾生に、本県の中学生を対象とした「未来を切り拓く Dream 授業」へ、ユースリーダーとしての参加協力を呼びかけている。

ユースリーダーは、中学生への助言や指導、授業の運営等を通し、様々な刺激を受けるとともに、中学生にとって目標となるべき姿になっている。

高い志を持った生徒を対象に、「未来を切り拓く Dream 授業」や「日本の次世代リーダー養成塾」という学校や日常生活とは異なる学びの場を提供することで、本県発展の中核的存在となる人材を、中学生から高校生まで体系的に育成するシステムの構築を目指す。

静岡県文化プログラムにおける「地域部活」の取組

(文化政策課)

1 要 旨



- 平成 30 年度に掛川市で学校の枠を超えて、中学生を対象に創部した全国初の文化系・地域部活動の取組は、準備段階の平成 29 年度から静岡県文化プログラム「地域密着プログラム」として採択、支援している。今年で 3 年目となり、活動は着実に定着してきている。
- 今年度は第一期生が中学校を卒業することから、令和 3 年度からは部活動の対象を中学生から高校生に拡大すると同時に、学校の文化部活動を地域移行する全国的な先進事例として、他地域への拡大を目指している。

2 地域部活「掛川未来創造部 Palette」の概要（令和元年度の活動内容は別紙）

- 平成 30 年度に文化部活動を一般社団法人が主催し、学校の管理外（地域）で行う新しい部活動「地域部活」を発足。掛川市内の公立中学校の生徒を対象とし、音楽・演劇・ダンスの各ジャンルの専門家のアドバイスを受けながら、部員自ら企画・制作・運営している。
- 掛川市教育委員会では校外部活動として認めるなど、掛川市における理解は広がっている。
- 平成 30 年度に文化庁の「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」に実例として記載されたことに続き、今年度は文化庁の「地域文化倶楽部（仮称）創設に向けた調査研究」のモデル事例に取り上げられるなど、全国に先駆けた取組として注目されている。

3 現状と課題

- 地域部活を主催する団体では、第 1 期生が高校生となる令和 3 年度から、掛川市内において対象を高等学校の部活動に拡大する予定。

	令和 2 年度	令和 3 年度	将来構想
部員	中学生 42 名 (1 年 23 名 2 年 4 名 3 年 15 名)	中学生 + 高校生の部を設置	中学生・高校生・ 大学生・社会人
地域	掛川市	掛川市	県内・全国
活動	<ul style="list-style-type: none"> オンラインでの専門家のアドバイス 優れたアーティストによる表現の鑑賞と交流 地域の様々な文化資源を知るための「移動教室」 創造体験ワークショップ など 	高校生を対象とした 地域部活動創部 	大学生・社会人の 地域部活動始動  地域芸術祭の企画 プロデュース担当

- 高等学校や他地域への拡大については組織的・広域的な取組が必要となるが、静岡県文化プログラムの支援（年 2,000 千円）は今年度で終了するため、今後の支援の在り方が課題となっている。

インテル国際学生科学技術フェア (Intel ISEF) 2019での受賞
(県立掛川西高等学校)

1 受賞者

県立掛川西高等学校 自然科学部

<受賞理由>

テーマ：空中環境DNAを使った鳥類調査法の確立をめざして

鳥類がはばたく際に放出する微粒子（皮脂等）を空気中から採取してDNAを検出することにより鳥類の生息調査を行う方法を確立し、今後の生息調査に新たな可能性を広げた。

2 受賞した賞

インテル国際学生科学技術フェア (Intel ISEF) 2019 動物科学部門において、優秀賞2等（部門の第3席）、特別賞「アリゾナ大学賞」の2つを受賞。アリゾナ大学賞は日本からは初の受賞となった。

3 大会概要

(1) 大会名：インテル国際学生科学技術フェア (Intel ISEF) 2019

(2) 運営主体：Society for Science & the Public

メインスポンサー：Intel社

(3) 開催期間、場所

令和元（2019）年5月12日（日）～17日（金）

アメリカ合衆国アリゾナ州フェニックスにおいて開催

(4) 大会概要

例年、世界75以上の国・地域の約700万人から選ばれた、約1,700人の高校生が自分たちの研究を披露しあう研究発表会。1950年から続き「科学のオリンピック」ともよばれる大会で、2019年度は70回目の開催となった。

2019年度は、世界80か国・地域から1,842人が参加し、日本からは12組21人が出場した。

4 その他

同研究は、平成30年度の「第16回高校生科学技術チャレンジ」（主催：(株)朝日新聞社・(株)朝日テレビ）において文部科学大臣賞を受賞、それにより Intel ISEF 2019 に出場することとなった。

なお、同じく平成30年度に開催された「第8回高校生バイオサミット」（主催：慶應義塾大学先端生命科学研究センターほか）においても、文部科学大臣賞を受賞している。

第25回スーパーコンピューティングコンテストでの優勝
(県立浜松工業高等学校)

1 受賞者

県立浜松工業高校 情報処理部

2 受賞した賞

第25回スーパーコンピューティングコンテストでの優勝

3 大会及び受賞概要

(1) 大会名 第25回スーパーコンピューティングコンテスト

(2) 主催 東京工業大学 (学術国際情報センター)
大阪大学 (サイバーメディアセンター)

(3) 開催期間・場所

令和元年8月19日(月)～23日(金)

東京会場：東京工業大学、大阪会場：大阪大学

(4) 競技概要及び結果

スーパーコンピューター使ったプログラミングの技術を競うコンテスト。スーパーコンピューター「TSUBAME 3」を使用して、複雑な計算が必要な物理の難問を解くためのプログラムを製作し、実際に解かせ、精度や解を導く速さを競う。

【課題及び審査内容】

多体問題で、宇宙空間にある10の5乗～10の8乗個の星同士の重力の影響を、制限時間内に要求精度以上(計算誤差10の-4乗以下)で求める課題が出題された。

順位は、この誤差の基準を満たすもののうち、計算速度が速い順につけられる。

【本選最終結果】

10の8乗個全ての解を算出できたのは、全20チーム中、浜松工業高校のチーム「Nerv」のみで、これが優勝の決め手となった。

【入賞チーム】

順位	チーム名	学校名
1	Nerv	静岡県立浜松工業高等学校
2	aTKoder	筑波大学附属駒場高等学校
3	supercon	開成高等学校

全国で輝いた技・芸の星〈産業・芸術編〉

～公立・私立実学系高校の実績～

【元年度】25件

N0	分野	学校名	月	大会名等及び実績	
85	農業	磐田農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	最優秀賞
86		静岡農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業、園芸、食品、造園）	優秀賞
87		田方農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業、畜産、食品、生活）	優秀賞
88		富岳館高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業）	優秀賞
89		浜松大平台高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業）	優秀賞
90		藤枝北高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞
91		小笠高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞
92		磐田農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸、農業土木）	優秀賞
93		浜松湖北高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞
94		田方農業高校	10月	全国押し花コンテスト	文部科学大臣賞
95		田方農業高校	11月	技能五輪全国大会フラワー装飾	敢闘賞
96		磐田農業高校	3月	全日本学校関係緑化コンクール 学校環境緑化の部	文部科学大臣賞
97	工業	掛川工業高校	7月	第16回全国高等学校A R D F競技大会 スプリント競技女子19歳以下の部	2位
98		浜松城北工業 高校	8月	第14回若年者ものづくり競技大会 電気工事部門（全国大会）	敢闘賞
99		浜松工業高校	8月	第25回スーパーコンピューティングコンテスト （全国大会）	優勝
100		浜松工業高校	1月	高校生の「建築甲子園」	審査委員長特別賞
101	商業	浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	団体3位
102		城南静岡高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	個人最優秀賞
103		浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	個人優秀賞
104		清水桜が丘高校	8月	全国高等学校ワープロ競技全国大会	団体3位
105	水産	焼津水産高校	12月	全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会	優秀賞
106	音楽	浜松江之島	11月	ふじのくに芸術祭2019 （音楽・舞台芸術部門合唱コンクール）	芸術祭賞
107	美術	清水南	11月	ふじのくに芸術祭2019（美術展・油彩画）	芸術祭賞
108		清水南	11月	ふじのくに芸術祭2019（美術展・彫刻）	芸術祭賞
109	書道	浜松学芸高校	8月	全国高等学校総合文化祭佐賀大会書道部門	朝日新聞社賞 奨励賞

【30年度】22件

N0	分野	学校名	月	大会名等及び実績		
63	農業	静岡農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（造園）	最優秀賞	
64		静岡農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸、畜産）	優秀賞	
65		田方農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸、畜産、食品科学、生活科学）	優秀賞	
66		富岳館高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業）	優秀賞	
67		藤枝北高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞	
68		小笠高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸、食品科学）	優秀賞	
69		磐田農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞	
70		浜松大平台高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（農業）	優秀賞	
71		浜松湖北高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技（園芸）	優秀賞	
72		田方農業高校	10月	全国押し花コンテスト	文部科学大臣賞	
73		田方農業高校	11月	技能五輪全国大会フラワー装飾	敢闘賞	
74		工業	浜松工業高校	5月	アジア太平洋情報オリンピック	銀メダル
75			掛川工業高校	7月	第15回全国高等学校ARDF競技大会 クラシック競技144MHz帯部門女子個人の部	優勝
76	掛川工業高校		7月	第15回全国高等学校ARDF競技大会 クラシック競技144MHz帯部門男子個人の部	2位	
77	浜松城北工業 高校		8月	第13回若年者ものづくり競技大会 電気工事部門（全国大会）	銀メダル	
78	浜松城北工業 高校		11月	高校生ものづくりコンテスト全国大会 電子回路組立て部門	3位	
79	浜松城北工業 高校		12月	第19回中部の未来創造大賞	大賞	
80	天竜高校		1月	高校生の「建築甲子園」	審査委員長特別賞	
81	商業	浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	団体準優勝	
82		浜松商業高校	7月	全国高等学校情報処理競技大会	3位	
83	音楽	沼津西高校	8月	全国高等学校総合文化祭信州大会 日本音楽部門	文化庁長官賞	
84	書道	浜松学芸高校	8月	全国高等学校総合文化祭信州大会書道部門	読売新聞社賞 奨励賞	

【29年度】 21件

N0	分野	学校名	月	大会名等及び実績	
42	農業	静岡農業高校	8月	全国高校生SBPチャレンジアワード	文部科学大臣賞
43		田方農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会農業鑑定競技	最優秀賞
44		田方農業高校	10月	全国押し花コンテスト	文部科学大臣賞
45	工業	沼津工業高校	7月	2017ロボカップ世界大会（名古屋）	出場
46		科学技術高校	8月	若年者ものづくり競技大会旋盤部門（全国大会）	金メダル
47		浜松工業高校	8月	全国高校生ポスターコンクール	文部科学大臣賞
48		科学技術高校	11月	高校生ものづくりコンテスト全国大会 （旋盤部門）	準優勝
49		天竜高校	1月	高校生の「建築甲子園」	審査委員長特別賞
50		浜松工業高校	3月	インテリアコーディネーター試験合格	県内唯一
51	商業	浜松商業高校	6月	データベーススペシャリスト試験合格	県内唯一
52		浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	個人優秀賞
53		浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	団体4位
54		磐田西高校	1月	全国商業高等学校英語スピーチコンテスト スピーチの部	奨励賞
55	水産	焼津水産高校	12月	全国水産・海洋高等学校生徒研究発表大会	奨励賞
56	福祉	清流館高校	8月	東海地区高校生介護技術コンテスト	優秀賞
57	音楽	浜松学芸高校	9月	全日本ジュニアクラシック音楽コンクール 全国大会	2位
58		浜松学芸高校	2月	学生のための電子オルガンによる作品コンテスト	優秀賞
59		浜松学芸高校	3月	日本ジュニア管打楽器コンクール	銀賞
60	書道	沼津西高校	8月	全国高等学校総合文化祭宮城大会書道部門	特別賞
61		浜松学芸高校	2月	国際高校生選抜書展	団体準優勝
62		浜松学芸高校	3月	毛筆書写技能検定成績優秀者表彰 1級	文部科学大臣賞

【28年度】24件

N0	分野	学校名	月	大会名等及び実績	
18	農業	下田高校 南伊豆分校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 意見発表分野（開発・保全・創造）	最優秀賞
19		田方農業高校	10月	全国押し花コンテスト	文部科学大臣賞
20		田方農業高校	10月	全国高校生フラワーデザインコンテスト	農林水産大臣賞
21		富岳館高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 意見発表分野（開発・保全・創造）	優秀賞
22		静岡農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表分野（ヒューマンサービス）	最優秀賞
23		磐田農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技	優秀賞
24		藤枝北高校	1月	高校生ビジネスプラン・グランプリ	準グランプリ
25		富岳館高校	3月	全国高校生マイプロジェクトアワード2016	文部科学大臣賞
26	工業	沼津工業高校	7月	2016ロボカップ世界大会（ドイツ）	出場
27		浜松城北工業 高校	8月	若年者ものづくり競技大会 電気工事部門（全国大会）	銅メダル
28		科学技術高校	11月	高校生ものづくりコンテスト全国大会 （旋盤部門）	準優勝
29	商業	浜松商業高校	6月	データベーススペシャリスト試験合格	県内唯一
30		浜松商業高校	7月	全国高等学校速記競技大会	団体優勝 個人準優勝
31		浜松商業高校	7月	全国高等学校簿記コンクール全国大会	団体準優勝 個人優勝
32		城南静岡高校	7月	全国高等学校IT・簿記選手権大会 日商簿記1級部門	団体4位
33		沼津商業高校	8月	東海地区高等学校生徒商業研究発表大会	優良賞
34		浜松商業高校	8月	全国高等学校珠算・電卓競技大会	団体優勝 個人優勝
35	音楽	浜松学芸高校	7月	クリスティアン・トカチェフスキ 国際ピアノコンクール	1位
36		三島北高校	8月	全国高校総合文化祭日本音楽部門	文化庁長官賞
37	美術	清水南高校	11月	ふじのくに芸術祭2016	芸術祭賞
38	書道	沼津西高校	8月	毎日新聞社学生書道コンクール	文部科学大臣賞
39		浜松学芸高校	8月	全国高校総合文化祭書道部門	朝日新聞社賞
40		沼津西高校	10月	国民文化祭あいち2016 小野道風公奉賛第68回全国書道展覧会	文部科学大臣賞
41		浜松学芸高校	3月	毛筆書写技能検定成績優秀者表彰 準1級	文部科学大臣賞

【27年度】17件

NO	分野	学校名	月	大会名等及び実績	
				大会名等	実績
1	農業	田方農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技	最優秀賞
2		田方農業高校	10月	全国押し花コンテスト	文部科学大臣賞
3		磐田農業高校	10月	日本学校農業クラブ全国大会 農業鑑定競技	優秀賞
4		静岡農業高校	2月	全国ユース環境活動発表大会	環境大臣賞
5	工業	浜松工業高校	6月	アジア太平洋情報オリンピック	銅賞
6		沼津工業高校	7月	2015ロボカップ世界大会（中国）	優勝
7	商業	静岡商業高校	7月	全国簿記コンクール	優勝
8		浜松商業高校	7月	全国珠算電卓競技大会	団体優勝
9		城南静岡高校	7月	全国高等学校IT・簿記選手権大会 日商簿記1級部門	団体4位
10	音楽	三島北高校	8月	全国高校総合文化祭日本音楽部門	文化庁長官賞
11		小山高校	8月	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2015ヒップホップ女子ミディアム編成部門	優勝
12		浜松学芸高校	12月	日本クラシック音楽コンクール全国大会 クラリネット	3位
13		小山高校	1月	全国高等学校ダンスドリル冬季大会 2016ヒップホップ男女混成ミディアム部門	優勝
14	美術	伊東高校 城ヶ崎分校	8月	全国高校生ポスターコンクール	最優秀賞
15		富士宮東高校	12月	全国高校総体ポスター図案コンクール	最優秀賞
16	書道	沼津西高校	8月	毎日新聞社学生書道コンクール	文部科学大臣賞
17		浜松学芸高校	8月	全国高校総合文化祭書道部門	文化庁長官賞

2 グローバル人材の育成に関する資料

項 目	頁
グローバル人材関連事業	34
グローバル人材育成の基盤形成事業（海外留学応援フェア）	36
静岡県教職員海外研修	37
青少年の国際交流推進事業	40
県内大学等でのグローバル人材育成への支援	42

グローバル人材育成関連事業

(教育政策課)

1 要旨

国内外で活躍できるグローバル人材の育成を社会総がかりで支援するため、県拠出金及び寄附金により「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、県内の高校生及び教職員の海外留学・海外研修等を促進する。

2 基金の概要

(単位：千円)

区分	2018年度決算	2019年度決算	2020年度予算
収入	37,459	36,408	40,000
県拠出金	20,000	20,000	20,000
寄付金・運用益	17,459	16,408	20,000
取崩	36,636	36,601	40,000
年度末残高	151,504	151,311	151,311

3 事業の概要

区 分	内 容	2019 実績	2020 当初 予算額	2020 年間 予定	
高校生の 海外体験 促進 (留学)	長期 留学	海外の教育機関等で語学などの専門分野の留学を体験【期間】1年程度【上限】30万円	1,500	1,500	0
	大学連携 留学	県内大学と連携して、大学が実施する各種留学・語学研修等に参加 【期間】1週間以上1か月程度未満【上限】30万円	10,582	11,135	0
	短期 留学	学校、市町、NPO等の民間が実施する語学研修、ボランティア活動等に参加 【期間】1週間以上1か月程度未満【上限】30万円	8,530	5,865	0
教職員の海外研修	教職員が海外での教育機関等で専門分野や現代的な課題の研究等を実施 【期間】1週間以上1か月程度未満【上限】50万円	5,831	5,000	0	
グローバル ハイスクール	学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定 【指定期間】2年程度【上限】300万円	4,321	9,000	9,000	
海外 インターンシップ	県内企業の海外工場における就労体験等を実施 【対象】専門高校等の生徒 【期間】国内(2日間) 海外就労体験(3泊4日) 【県実施】全額県負担	5,837	6,000	0	
ものづくり等世界大会	ロボット競技等のものづくりに関する世界大会へ参加 【対象】専門高校等の生徒 【上限】30万円(国内開催は10万円)	0	1,500	1,500	
計		36,601	40,000	10,500	

4 事業計画と実績

2016年～2020年までの5年間で約800人の高校生及び教職員の海外留学等を支援する。

区 分		2016実績 (応募)	2017実績 (応募)	2018実績 (応募)	2019実績 (応募)	2020計画 (当初予定)
高 校 生 の 海 外 体 験 促 進 (留 学)	長期留学	5人 (20人)	6人 (12人)	5人 (31人)	5人 (17人)	募集中止 (5人)
	県内大学 と連携し た留学	5人 +引率1人 (10人)	10人 +引率1人 (10人)	29人 +引率3人 (40人)	29人 +引率3人 (33人)	募集中止 (30人+ 引率)
	短期留学	23人 (76人)	43人 (67人)	22人 (95人)	31人 (60人)	募集中止 (24人)
教職員の海外研修		6人 (16人)	8人 (8人)	9人 (9人)	16人 (27人)	募集中止 (10人)
グローバル ハイスクール		2校37人 掛川西 日大三島 (6校)	3校108人 掛川西 日大三島 浜松開誠館	3校112人 掛川西 日大三島 浜松開誠館	1校23人 +引率3人 浜松開誠館	3校50人 +引率4人 (54人) ※海外派遣未定 藤枝西 浜松湖南 西遠女子
海外 インターンシップ		15人 +引率3人	43人 +引率8人	36人 +引率6人	38人 +引率6人	募集中止 (36人+ 引率6人)
ものづくり等世界大会		2人	3人	0人	0人	募集中止 (5人)
人数計		97人	230人	222人	154人	(54人)
事業額 (千円)		18,879	37,993	36,636	36,601	(40,000)

※ 2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として、4月に募集開始を予定していた生徒及び教職員の海外派遣を伴う事業は、原則中止とした。

グローバル人材育成の基盤形成事業（海外留学応援フェア）

（教育政策課）

1 概要

「グローバル人材の育成」のため、県内の学生及び県内高校生に対し、海外への留学を促進することを目的に行う。情報の発信効果を高めるため、スポーツ・文化観光部（大学課）及び大学コンソーシアムと共催で、年2回開催している。

2 令和2年度事業計画

	第1回	第2回
月 日	9月20日（日）	12月13日（日）
場 所	オンライン	オンライン
内 容	・セミナー ・ワークショップ（定員：25名）	・ミニセミナー
対 象	・セミナー（高校生・大学生・一般等） ・ワークショップ（高校生・大学生）	高校生・大学・一般等
参加機関	・講師 （株）留学ジャーナル 高持氏	8機関（アメリカ・台北・フィリピン・フランス・カナダ大使館等）

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンライン開催とする。
- ・多くの大使館等から、フェアへの参加を年1回に絞りたいとの要望があったため、9月は昨年度と構成内容を変更し、12月は例年どおりの構成で開催する。

3 令和元年度事業実績

	第1回	第2回
月 日	令和元年6月23日（日）	令和元年12月15日（日）
場 所	浜松市市民協働センター	グランシップ
内 容	・留学に関するセミナー ・ブースでの相談 ・海外渡航者との相談	・基調講演 ・海外渡航者の発表 ・ブースでの相談 ・海外渡航者との相談
参加人数	131人 （うち高校生及びその保護者50人）	183人 （うち高校生及びその保護者127人）
参加機関	11機関（アメリカ・韓国・スペイン・ドイツ・フィリピン・フランス等）	12機関（カナダ・アメリカ・韓国・スペイン・フィリピン等）

○ 成果と課題

- (1) 海外留学応援フェアについて、平成28年度以降は教育委員会と知事部局が連携して開催しており、令和元年度は初めて2都市（浜松市・静岡市）で実施した。
- (2) 留学フェアでは、講演会、個別ブース相談、留学斡旋団体や参加国大使館からの説明、高校生や大学生の海外留学についての発表等のプログラムを実施した。アンケートによれば、各プログラムの参加者の満足度はどれも95%以上であったが、参加者が少ないプログラムもあり、プログラムの内容や順番、当日の来場者へのアピールなどについて、工夫が必要である。

○静岡県教職員海外研修

1 目 的

教科等の指導方法及び学校運営等に関する事項について研究し、指導力及び専門性の向上並びにグローバル人材育成に寄与する。

2 派遣者実績 ※R2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止

年度	小学校	中学校	高校	特別支援	計
H28	イタリア イギリス	オーストラリア	台湾 フィンランド アメリカ	—	6人
H29	オーストラリア イギリス アメリカ	シンガポール	ニュージーランド 台湾 クロアチア ツバル	—	8人
H30	デンマーク オーストラリア	マルタ	アメリカ フランス・スペイン インドネシア モンゴル	アメリカ (2)	9人
R1	アメリカ	—	アメリカ ミクロネシア タイ・ベトナム オランダ	—	5人
合計	8人	3人	15人	2人	28人

3 成 果

(1) 令和元年度 研修テーマ

訪問先	R 1 研修テーマ	校種
アメリカ (ニューヨーク)	アメリカ公立小学校によるインクルーシブ教育・バイリンガル教育の実情	小
※タイ、ベトナム	生徒の異文化理解や多様性を深めるための研修—現地高校生・大学生・社会人から学ぶ—	高
アメリカ (アリゾナ州、ミネソタ州)	高校物理の授業における日本型STEM教育構築を目標とした授業づくりの考察	
オランダ (ロッテルダム、バンドレヒト)	オランダから学ぶ主体的な学びとESD	
ミクロネシア連邦 (ポンペイ州)	海外留学を支援するための体制づくり—「海外に行きたい!」という生徒のやる気を引き出す留学支援—	
アメリカ (カリフォルニア州)	コミュニケーション能力を高めるためのディベートの導入と評価	

※ グローバル人材育成事業成果報告会 (R 2年2月4日) において報告

○研修成果の活用・還元 (例)

- ・訪問したアメリカのパブリックスクールの児童と、自校の4～6年生の児童との文通による交流
- ・自校の台湾語学研修、タイ・ベトナム研修の内容充実に還元
- ・総合教育センター「STEM教育基礎研修」において調査内容を報告
- ・指導法の転換 (身近な問題を出発点に世界規模の問題を考察)
- ・海外留学企画における海外体験活動の受入先の確保と内容の充実

○静岡県教職員海外研修（小学校英語対応海外研修）

1 目的

小学校英語の教科化への対応として、海外でのマンツーマン語学研修に参加することにより、教員の「会話力」を短期間で飛躍的に向上させるとともに、現地小学校等の視察を行い、渡航先の現状を肌で感じる異文化や共生教育への理解を深める。

- 2 研修内容（R1年度 予算額 3,000千円） ※R2年度は新型コロナウイルス感染症のため中止
小学校教員10人を派遣



< 日程 >

	月日	曜	日程
1	7月28日	日	中部国際空港発→セブ島着→CDU校
2	7月29日	月	オリエンテーション マンツーマン授業：50分×3コマ
3	7月30日	火	マンツーマン授業：5~6コマ グループ授業：2~3コマ
6	8月2日	金	トータル：35レッスン
7	8月3日	土	自主研修
8	8月4日	日	自主研修
9	8月5日	月	セブ市内小学校視察及び交流
10	8月6日	火	セブ島発→中部国際空港

< 1日のスケジュール (例) >

	時間	Intensive Speaking Course
1	8:00-8:50	マンツーマンレッスン
2	9:00-9:50	
3	10:00-10:50	
4	11:00-11:50	
昼食		
5	13:00-13:50	マンツーマンレッスン
6	14:00-14:50	
7	15:00-15:50	グループレッスン
8	16:00-16:50	

3 成果

区 分	研修生の声
語学研修について	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスンで研修が進められるため、語学力に自身のない自分にとってはとても良かった。 ・最初は聞き取ることも話すこともできず、大変であったが、日を重ねるごとに聞き取ることができるようになり、有意義な研修となった。忙しい中で難しいとは思いますが、もう少し期間が長いと更に聞き取る力や話す力が付いていくと感じた。 ・マンツーマン指導で、自分にあった授業内容で進めることができたので、とても理解しやすかった。 ・初めは、先生からの質問に単語やジェスチャーでしか答えられなかったが、complete sentence と自分の意見を常に求められ、日を重ねるごとに文で伝えようとする意識が高まった。 ・私たちが受けてきた英語教育は、書くことが中心となっていて、話すこと、聞くことが十分でなかったと思う。だから、日本の子どもたちは、何年も英語を学習しても話すことができないのだと感じた。
現地学校又は施設見学について	<ul style="list-style-type: none"> ・可能なら現地の先生方や子供と交流する時間を取りたい。お互いの学校の様子について、プレゼンテーションをする時間を取ればさらに有意義であると感じた。 ・フィリピンの教育事情が大変厳しい状況であることが分かった。施設も環境も整わず、予算も足りないので、教員が自費で教材を用意している。 ・日本との違いを目の当たりにし、児童も教員もどれだけ日本が恵まれた環境であるかということを感じた。そして、今まで以上に精一杯仕事に向き合いたいと感じた。
成果の還元方法について	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を進める際にこれまで以上にオールイングリッシュで行うことを意識し、英語を話せる楽しさを子供に伝えていく。 ・自分の考えを明確に持ち、何とかして伝えようとする気持ち、伝えられる能力が育める授業展開をしたい。 ・ALTと英語で会話する場面を子供たちに見せていきたい。英語で話したら相手に伝わった！楽しい！もっと話したい！という機会を授業の中に設けたい。 ・教員に対しては、ALTとの会話をする際に英語で話すことを提案したい。

青少年の国際交流推進事業

(教育政策課)

1 概要

静岡県地域外交戦略を展開するにあたり、必要な施策を総合的かつ効果的に推進することを目的として、静岡県地域外交推進本部会議が平成28年4月に設置された。

教育委員会においては、教育政策課が幹事として、地域外交課等との連絡・調整に当たり、関係課が地域外交関連事業等を実施する。

2 令和2年度計画

(単位：千円)

事業名		内容等	当初 予算額	9月現計
日中青年代表 交流発展事業	相互 交流	・経済、産業、教育、行政等の各分野における静岡県と中国浙江省の青年リーダー同士の交流を実施 浙江省交流（12月中の8日間）、日中青年各30人 ※1 静岡県交流（10、11月中の4日間）、日中青年各30人	3,646	3,646
モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互 交流事業	派遣	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）への高校生（25人）派遣学校訪問、体験活動等の実施（7月下旬～8月上旬の6日間）	6,326	326 (▲6,000)
	受入	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）高校生（40人）受入学校訪問、体験活動等の実施（1月下旬～2月上旬の8日間）※2	2,987	2,987
モンゴル国教員人材育成支援事業	派遣	・モンゴル国への指導主事（2人）派遣（9月下旬の7日間） 教員教育研修センターでの事前の情報交換に基づく研修、モンゴル教員との意見交換、学校訪問等の実施	—	—
	受入	・モンゴル国の教員2名の研修受入（期間：モンゴル側の研修内容の希望を基に調整 7日間）※3 総合教育センターでの研修、学校訪問の実施	762	762
合計			13,721	7,721

※1～3 コロナウイルス感染症拡大への対応として、実施時期を最大限後倒し

※モンゴル国ドルノゴビ県への高校生派遣事業中止に伴う不要経費の減（▲6,000千円）

○ コロナウイルス感染症拡大に伴う対応

日中青年代表交流発展事業	派遣	令和2年度は中止
	受入	浙江省側と実施の有無を協議中
モンゴル国ドルノゴビ県との高校生相互交流事業	派遣	令和2年度は中止
	受入	
モンゴル国教員人材育成支援事業	派遣	令和2年度は中止
	受入	

4 令和元年度実績

(単位：千円)

事業名		内容等	決算額
日中青年代表 交流発展事業	相互 交流	・経済、産業、教育、行政等の各分野における静岡県と中国 浙江省の青年リーダー同士の交流を実施 浙江省交流（8月7日～16日の8日間）、日中青年各26人 静岡県交流（10月25日～28日の4日間）、日中青年各28人	3,646
モンゴル国ド ルノゴビ県と の高校生交流 事業	派遣	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）への高校生（25人）派遣 学校訪問、体験活動等の実施（8月5日～10日の6日間）	9,146
	受入	・モンゴル国（ドルノゴビ県含む）高校生（40人）受入 学校訪問、体験活動等の実施（10月14日～21日の8日間）	
モンゴル国教 員人材育成支 援	派遣	・モンゴル国への指導主事（2人）派遣（9月23日～29日の7 日間） 教員教育研修センターでの事前の情報交換に基づく研修、 モンゴル教員との意見交換、学校訪問等の実施	—
	受入	・モンゴル国の指導主事等2名の研修受入（12月2日～9日 の8日間） 総合教育センターでの研修、学校訪問の実施	719
合 計			13,511

県内大学等でのグローバル人材育成への支援

(大学課)

1 要 旨

県内高等教育機関のグローバル化支援や、外国人留学生の受入、日本人学生の海外留学を促進することにより、地域や世界に貢献できるグローバル人材の育成を図る。

2 令和2年度事業実施状況

区分		内容
大学グローバル化支援	留学・留学生支援機能の強化	・ふじのくに地域・大学コンソーシアムに、留学事業に精通した人材を1名増員し、2名体制に
	留学情報発信	・アジア圏での独自留学フェアの開催 ⇒コロナにより中止
		・県内外の日本語学校留学生向け県内大学進学フェアの開催
		開催日
開催方法		オンライン(ZOOM)
	参加者数	242名(国内22都府県の日本語学校留学生等)
	参加大学	県内8大学
	好評につき、12月12日(土)に2回目を開催予定	
	国際学生寮モデル事業	・日本人と留学生と一緒に暮らす「国際学生寮」の設計
	懇話会・研究会	・懇話会：県内大学の学長等との意見交換会の開催(予定) ・研究会：大学向けコロナに伴う海外交流への影響調査(2回)
留学生支援	留学生支援	・ふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた生活支援等 ①留学生や日本人学生を対象としたオンライン交流会の開催 ②生活ルール、交通安全講習会(オンライン)の開催(9/28) ③就職支援講座(静岡：6/27、浜松：6/24、7/15)等
	本県への留学促進	・浙江省との短期留学生相互派遣 ⇒コロナにより中止 ・アジアの高校性等を招聘し、県内大学等と交流 ⇒コロナにより中止
海外留学支援	産学官連携留学促進	・産学官が連携した日本人学生の海外留学促進 民間企業等からの寄附と国・県からの助成をもとに、県内高等教育機関に在籍する学生に奨学金を給付し留学を支援 ⇒コロナにより一部中止
	海外留学応援フェア	・日本学生支援機構や各国大使館等と連携し、留学支援制度や各国の留学情報等を発信するフェア開催(第2回：12月予定)
	開催日	9月20日(日)
	開催方法	オンライン(Webex)
	参加者数	延べ42名(セミナー28名、ワークショップ14名)